忠　岡　町

みんなでつくろう　夢・希望・感動あふれるまち
～日本一小さなまち・忠岡の挑戦～

はじめに

忠岡町では、平成22年度をもって第４次総合計画の目標年次が満了しました。この４月からは、新しいまちづくりの指針となる第５次総合計画に沿って、住民の方々とともに行う「まちづくり」をスタートさせています。２年の歳月をかけた第５次総合計画の策定期間中に実施した「住民意識調査」の集計からは、忠岡の町を愛し、みんなで支え合いながらずっと住み続けたいという願いが、住民一人ひとりの胸中にあることを改めて知ることができました。

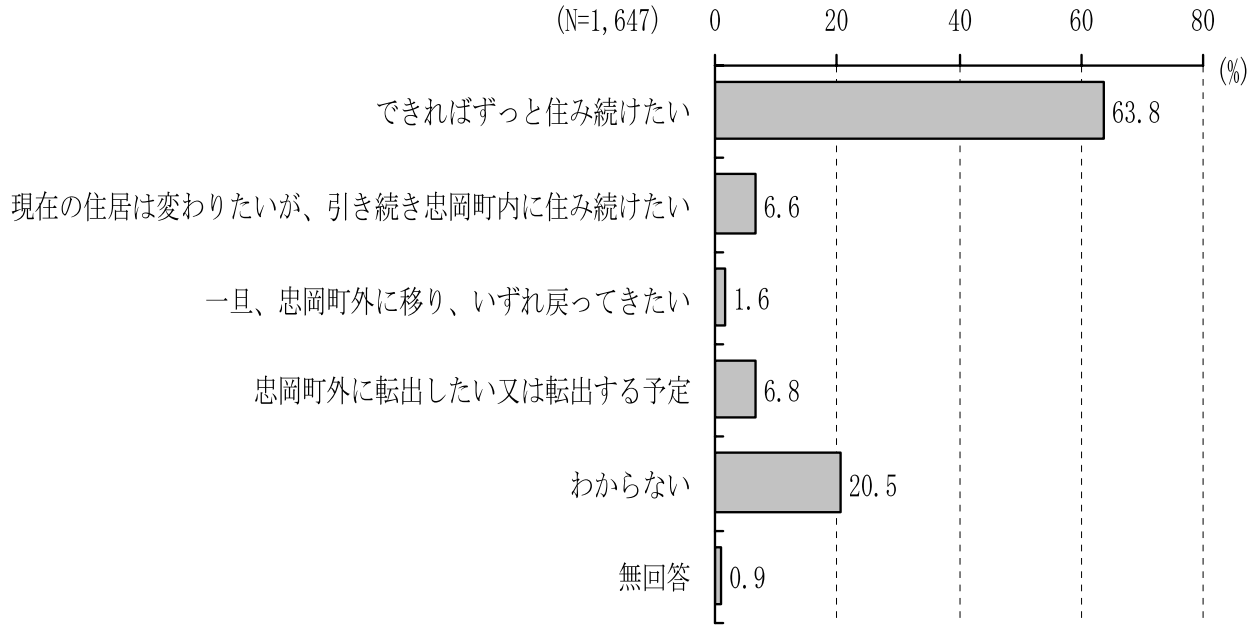
第４次総合計画からの10年

第４次総合計画では、生まれてよかった　住んでみてよかった“住み続けたいまち　ハートふる・ただおか”を『将来像』に設定し、この実現に向け、「まちづくりの主体となる人づくりに努める」、「一人ひとりの自立した生活を支える」などを施策の大綱に定め、目標に向かってきました。

けれども、その後は経済情勢が思いのほか停滞し、地方交付税や町税などの歳入が減少したことなどから、緊迫した町財政が長く続くこととなり、『将来像』の達成に向けて計画していた事業などを縮小・削減することも避けられませんでした。さらには、職員数の削減や町有地を売却するなどの施策を思いきって展開することにより、町の収支改善に努めて

住民意識調査集計より

(図　居住意向)



きました。

また、一方では、革新的に進んでいくＩＴ分野にも取組み、地方分権に対応できる体制を整備するなど、目まぐるしく変化する時代の流れに遅れることがないよう、できる限り対応してきました。

このような中で、『将来像』である「住み続けたいまち」の実現について、その評価を問うこととなった今回の住民意識調査では、「今後も忠岡町に住み続けたい」という意向を持つ方々が全体の７割以上を占めていたことには、感動するとともに安堵いたしました。この結果を得るまでの日々は、（気がかりで心配な時間を過ごした）と云うのも決して過言ではありません。

また、『最も望ましい将来の姿』としては、「保健や医療体制、福祉が充実し、安心して暮らせるまち」、「子育てがしやすく、教育環境が整い、子どもがのびのびと成長できるまち」、「公害や騒音がなく、公園や緑が豊かな、落ち着いて暮らせるまち」などの意見も多く寄せられたことから、今後のまちづくりの方向性が見えてきました。

第５次総合計画を策定する中で

第５次総合計画を策定する過程では、小中学生から作文を募集しました。この作文からは、10年後に町を担う若者となっている立場を想定し、自分達も忠岡町と共に成長していきたいという気持ちが様々な言葉で表現され、「できれば、ずっと住み続けたい」という気持ちが十分に伝わってきました。

次に、住民の応募により開催した「住民会議」や町内企業のヒアリングでは、日々感じているありのままの意見をじっくり聴くことができました。

これらの中では、小さなまちであるからこそ、人と人とのつながりが自然に生まれ、親密なコミュニティが形成されていることや、町域が小さいだけでなく、平坦な地形であることから徒歩や自転車でも快適に暮らせるまちをつくることができるという強み（長所）が挙げられました。

また、かつては中小工場のまちでしたが、ベッドタウン化が進み産業が停滞していることや、昼間に

住民会議のようす

まちの活動を支えることができる人材が不足していることが弱み（短所）として挙げられました。

第５次総合計画では、住民意識調査を含め町全体から集められた貴重な意見を反映し、小さなまちであるからこその強みを最大限に活かしつつ、その背面にある弱みをどうしたら克服できるのか、留意して策定してきました。みんなの町をみんなで作る視点から、“みんなでつくろう　夢・希望・感動あふれるまち　～日本一小さなまち・忠岡の挑戦～”を、新しい『将来像』のキャッチフレーズとし、政策や基本施策をわかりやすく、より効果的・戦略的に進めていくため、基本構想の理念（基本戦略）として、「人が輝くまちづくり」「安全・安心なまちづくり」「快適で活力あふれるまちづくり」「自立と協働のまちづくり」の４点を掲げています。

忠岡町は、挑戦していく！

全国で市町村合併が進んでいく中、本町は町域面積が日本一小さな町となりました。

役場と住民とが協働で行うまちづくりには、「人」が成否のカギを握っています。お互いの顔がよく見える「日本一小さなまち」である魅力を内外に発信し、役場と住民、事業者が、それぞれの役割を果たしながら、みんなでつくるまちづくりを展開して参ります。

住民と協働でつくる「忠岡のまちづくり」は、１万８千人の熱い想いとともに、今始まったばかりです。